

令和3年（2021年）3月30日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

麦赤かび病の防除対策（技術情報第19号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

本年産の麦類の生育は平年に比べて早く、赤かび病の防除適期が例年より早まることが予想されます。ほ場をよく観察し、防除適期を逃さないよう散布スケジュールの調整を行ってください。

1 麦類の生育について

- (1) 農産園芸研究所作物研究室（合志市）の作況調査では、令和3年産麦（11月19日播種）の生育は平年に比べて早く、出穂期は、はるしづく（二条大麦）で13日程度、シロガネコムギ（小麦）で14日程度早い（表1）。なお、平年の出穂期は、はるしづく（二条大麦）が3月31日、シロガネコムギ（小麦）が4月4日である。
- (2) 福岡管区气象台が3月25日に発表した気象予報によると、向こう1ヶ月の気温は平年より高い予想のため、麦の生育は今後も早まることが予想される。

表1 令和2年度（令和3年産）麦の生育状況（播種日：11月19日）

| 品種 | | 出穂期 | 開花期 | 成熟期 |
|---------|----|------|-----|------|
| はるしづく | 本年 | 3/18 | | |
| | 前年 | 3/20 | 4/8 | 5/11 |
| | 平年 | 3/31 | - | 5/16 |
| シロガネコムギ | 本年 | 3/21 | | |
| | 前年 | 3/21 | 4/2 | 5/17 |
| | 平年 | 4/4 | - | 5/24 |

農産園芸研究所作物研究室調査

2 防除対策について

- (1) 赤かび病の薬剤散布時期は、小麦では開花を始めた時期から開花期（1穂につき数花開花をしているものが、全穂数の40～50％に達した日）までの間とその7～10日後、二条大麦では、穂揃い期（全茎の80～90％が出穂した日）の10日後頃とその7～10日後。
- (2) 赤かび病の防除薬剤は予防効果が主体であるため、散布時期が遅れないよう適期に2回の防除を行う。
- (3) 麦類の出穂期や開花期等は気温に左右されるため、今後の生育状況に注意する。
- (4) 農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、登録がある農薬を使い、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守する。また、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行なうなど、危害防止に努める。

※アメダス実測値を用いた赤かび病多発条件出現日の判定結果を病虫害防除所のホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/>) に掲載し、随時更新します。

| |
|--|
| 熊本県病虫害防除所 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所 病虫害研究室 予察指導係) 担当：作本 TEL 096-248-6490 |
|--|